

**授業概要**

本演習は、主として日本の近現代史（幕末・明治維新时期～現代）の分野から卒業論文のテーマを設定しようとしている学生を対象とする。夏休みに入るまでに、おおよその卒論テーマを決めてもらうことになる。

春期の授業では、論文の書き方や文献・史料の集め方などの説明を行うとともに、指定したテキスト（山内昌之・細谷雄一編『日本近現代史講義』）を使って発表と質疑応答を行いながら内容を検討していく。

秋期の授業では、テキストの講読と併行して、各人が設定したテーマについての研究報告（先行研究や文献・史料の紹介、問題の設定など）を行う。受講生全員とのディスカッションを通じて、論文の中身を練ることに努める。

4年次における卒論作成に向けて、日本近現代史の知識を養いつつ、論文作成法を身につけられるようキメ細かく指導する。

**授業計画**

第1回	春期の進め方の説明	第16回	秋期の進め方の説明
第2回	論文の準備・作成方法について	第17回	卒論構想についての1回目研究報告①
第3回	文献・史料の収集について	第18回	卒論構想についての1回目研究報告②
第4回	『日本近現代史講義』の講読①	第19回	卒論構想についての1回目研究報告③
第5回	『日本近現代史講義』の講読②	第20回	卒論構想についての1回目研究報告④
第6回	『日本近現代史講義』の講読③	第21回	卒論構想についての1回目研究報告⑤
第7回	『日本近現代史講義』の講読④	第22回	『日本近現代史講義』の講読⑪
第8回	『日本近現代史講義』の講読⑤	第23回	『日本近現代史講義』の講読⑫
第9回	『日本近現代史講義』の講読⑥	第24回	『日本近現代史講義』の講読⑬
第10回	『日本近現代史講義』の講読⑦	第25回	卒論構想についての2回目研究報告①
第11回	『日本近現代史講義』の講読⑧	第26回	卒論構想についての2回目研究報告②
第12回	『日本近現代史講義』の講読⑨	第27回	卒論構想についての2回目研究報告③
第13回	『日本近現代史講義』の講読⑩	第28回	卒論構想についての2回目研究報告④
第14回	各自の設定テーマの報告	第29回	卒論構想についての2回目研究報告⑤
第15回	春期の総括	第30回	秋期の総括

**到達目標**

- ① できるだけ早めに卒論で書こうとするテーマをしぼっていく。
- ② テーマに関連する文献や史料を収集できるようにする。
- ③ 文献・史料を読み、内容を理解できるようにする。

**履修上の注意**

- ① 日本史、特に近現代史に興味を持ち、その分野から卒論のテーマを設定する予定の者が受講することを期待する。
- ② 演習は学生主体で行われるものなので、全出席することが前提である。無断欠席は認めない。

**予習・復習**

- ① テキストは毎回必ず各自事前に目を通しておく。
- ② 自分の発表に際しては、レジュメを作成する。

**評価方法**

授業に対する姿勢（発表準備や質疑応答への参加）80%、レポート 20%

**テキスト**

教科書名：日本近現代史講義  
著者名：山内昌之・細谷雄一編  
出版社名：中公新書  
出版年（ISBN）：2019年

**授業概要**

今年度のテーマは、18・19世紀の英領西インド諸島のプランテーション奴隷制の歴史、ならびに奴隷の人口の問題です。このテーマは、ここ30年来西洋の歴史研究の世界で最も注目されているものの一つです。それは、アフリカ人奴隷制とレイシズム、そしてその根底にある性差別という、欧米では今日非常にデリケートな問題に正面からチャレンジする学際的試みだからです。まず予備知識の拡充に努めてもらい、この分野の古典的文献を輪読し様々議論し合います。そして奴隷の生死に関する史料を吟味し、各自の問題点を掘り下げてゆきます。原史料から歴史を探る楽しみとともに、人類の歴史の歩みの厳粛さを感じてもらうことが目標です。

**授業計画**

第1回	春期概要説明：テキスト講読の目的・狙い	第16回	春期成果の確認 秋期授業概要説明
第2回	準備的考察①：歴史人口学と家族史研究	第17回	『コロンブスからカストロまで』Ⅱ内容概略紹介
第3回	準備的考察②：「新大陸」とヨーロッパ	第18回	『コロンブスからカストロまで』Ⅱを読む①
第4回	準備的考察③：大西洋奴隷貿易と西インド	第19回	『コロンブスからカストロまで』Ⅱを読む②
第5回	準備的考察④：「ウィリアムズ・テーゼ」	第20回	『コロンブスからカストロまで』Ⅱを読む③
第6回	まとめ：黒人奴隷の人口と家族	第21回	『コロンブスからカストロまで』Ⅱを読む④
第7回	『コロンブスからカストロまで』Ⅰを読む①	第22回	『コロンブスからカストロまで』Ⅱを読む⑤
第8回	『コロンブスからカストロまで』Ⅰを読む②	第23回	『コロンブスからカストロまで』Ⅱを読む⑥
第9回	『コロンブスからカストロまで』Ⅰを読む③	第24回	『コロンブスからカストロまで』Ⅱを読む⑦
第10回	『コロンブスからカストロまで』Ⅰを読む④	第25回	『コロンブスからカストロまで』Ⅱを読む⑧
第11回	『コロンブスからカストロまで』Ⅰを読む⑤	第26回	『コロンブスからカストロまで』総括的討論
第12回	『コロンブスからカストロまで』Ⅰを読む⑥	第27回	原史料吟味①：ジャマイカ Slave Register 読解と感想
第13回	『コロンブスからカストロまで』Ⅰを読む⑦	第28回	原史料吟味②：ジャマイカ Slave Register 読解と感想
第14回	『コロンブスからカストロまで』Ⅰを読む⑧	第29回	原史料吟味③：ジャマイカ Slave Register 読解と感想
第15回	春期成果のまとめと秋期準備：各自研究 テーマの開示と課題小論文の指定	第30回	今年度演習の総括 成果と課題について

**到達目標**

- ・ 4年次卒業論文執筆準備として調査、データの作成と整理、文献批判・論文構想・小論文作成のためのスキル養成をします
- ・ 海外の時代も文化的背景も全く異なる人類同胞の経験を読み解き、地球的視野を獲得します
- ・ プレゼンテーション能力を高め、実社会で職業人として活躍できる資質を養います
- ・ 自分と異なる意見を尊重しながら、自分の意見をより良く鍛える力を獲得します

**履修上の注意**

- ・ 「西洋史入門」や「西洋史概説」、「西洋史資料講読」の受講を推奨します。ただし意欲さえあればこれらを受講していない諸君の参加も歓迎します。その際には、必要知識を個別に指導しますので、遠慮なく申し出てください
- ・ やむを得ない欠席や遅刻、早退は、事前に指導教員だけでなくメンバー皆に通知し、了解を取らなければいけません

**予習・復習**

演習は、全員が力を合わせ、心を一つにして初めて成り立つ授業です。そのためにはプレゼンター（1名指定）だけでなく、司会（1名指定）、コメンテーター（1～2名指定）その他のメンバーも、事前に時間を十分にかけ、入念に準備して臨むことが必要です。春期ではテキストを十分に読み込んで参加してください。秋期には、プレゼンターは報告1週間前までにレジюме（発表骨子）を作成、指導を受けた上で皆に提示します。司会、コメンテーターその他のメンバーは、プレゼンターのために建設的な批判ができるよう、準備してください。

**評価方法**

- ・ レジюме並びに小論文の内容の的確さと発表者の論点の独自性、プレゼンテーションやコメントの姿勢の真摯さ、そして演習という共同作業にどれほど貢献できたかを、各回審査し、総合的に評価します。

**テキスト**

- ・ 教科書名：『コロンブスからカストロまで——カリブ海域史、1492—1969——』Ⅰ・Ⅱ巻。
- ・ 著者名：E.ウィリアムズ著 川北稔訳
- ・ 出版社名：岩波書店
- ・ 出版年：2000年



**授業概要**

今や国際語である英語の歴史は波乱万丈ともいってもよいだろう。そもそも英語はイギリス人の祖先である北ドイツの小部族、アングロサクソン人の言葉であった。そのゲルマン人の言葉は、1066年にフランスの一地方の領主がイギリスを武力制圧した大事件など数々の外圧の影響を受けて、徐々に現在の形に変化していった。その歴史的過程を見ていくのは非常に興味深いことである。

英語を学習していると、様々な疑問が浮かぶことがある。英単語の綴り字はなぜ発音通り書かれず不規則で、ひとつひとつ暗記する必要があるのだろうか。複数形は単数形に s をつける（例えば books）はずなのに、なぜ child の複数形は children なのだろうか。このような疑問は英語を歴史的に考察すれば自ずと解けていく。

この演習では、英語を過去から歴史的に分析し、現在の英語をさらに深く理解するとともに、英語学のものの方を見方を身につけていく。

**授業計画**

第 1 回	イントロダクション	第 16 回	ノルマン・コンクエスト
第 2 回	古英語から近代英語まで(1) 本来語	第 17 回	中英語の主な特徴(1) 北欧語系借用語
第 3 回	古英語から近代英語まで(2) 借用語	第 18 回	中英語の主な特徴(2) 借用語と本来語
第 4 回	ケルト人、ローマ人の英国侵略	第 19 回	中英語の主な特徴(3) 3 層の同意語など
第 5 回	ケルト語、ラテン語の影響(1) ケルト語	第 20 回	近代英語期：標準語の成立
第 6 回	ケルト語、ラテン語の影響(2) ラテン語	第 21 回	近代英語期：大母音推移
第 7 回	アングロサクソン人の英国侵略	第 22 回	ルネサンスが与えた英語への影響
第 8 回	アングロサクソン人の文化	第 23 回	宗教改革が与えた英語への影響
第 9 回	古英語の主な特徴(1) 名詞の屈折	第 24 回	シェイクスピアの英語の特徴
第 10 回	古英語の主な特徴(2) 動詞の屈折	第 25 回	綴り字問題
第 11 回	古英語の主な特徴(3) 語順と語彙	第 26 回	規範文法の成立
第 12 回	ヴァイキングの英国侵略	第 27 回	アメリカ英語
第 13 回	北欧語の英語への影響(1)	第 28 回	英語の辞書
第 14 回	北欧語の英語への影響(2)	第 29 回	語源
第 15 回	春期の総まとめ	第 30 回	総まとめ

**到達目標**

古英語、中英語、近代英語それぞれの特徴を把握して英語の歴史を理解するとともに、英語学の基礎を学び、卒業論文を書くための土台となる力を身につけることを到達目標とする。

**履修上の注意**

この演習は英語の「歴史」を扱うため、英語が苦手な方でも、英語の歴史に興味がある方ならば受講を歓迎する。テキスト、プリント等はほとんど日本語で書かれたものを使用する。

**予習・復習**

毎回テキストを読んで理解できた箇所とできなかった箇所を明確にして授業に臨み、その後、予習において理解できなかった箇所を中心に復習することが望ましい。

**評価方法**

授業内での発表（春期・秋期各一回）、レポート（春期・秋期各一回）を重視し、さらに学習に対する姿勢も考慮に入れて、総合的に評価する。

**テキスト**

特に定めない。適宜、参考図書を紹介する。

**授業概要**

カルチュラル・スタディーズ 映像社会と現代文化の解読

映像イメージを読み解き、文化現象の意味を考察してゆく。映画、ドキュメンタリー、小説、あるいは漫画や雑誌などに描かれる現在の諸問題を考察することで、現代文化の理解を目標とする。カウンセリングブーム、うつ病の流行、携帯電話、携帯小説、性同一性障害、児童虐待、モンスター、怪獣、ホラー映画、少年犯罪、多重人格、身体障害、テロリズム、ファッション、ディズニーランド、アニメーション、オタクなど、現代社会を表象するテーマを、映画等の映像テキストを分析することで、議論してゆきたい。

**授業計画**

第1回	ゼミの方針について 自己紹介	第16回	ジブリ映画論(1)
第2回	テロリズム時代の恐怖文化	第17回	ジブリ映画論(2)
第3回	『天気の子』と現代日本	第18回	『エヴァンゲリオン』と苦悩の若者たち
第4回	『鬼滅の刃』とヒットの要因	第19回	新海誠論—アニメ文化のゆくえ
第5回	クトゥルフ神話の文化史	第20回	日本の古典的怪談文化
第6回	H・P・ラヴクラフト論	第21回	『リング』とJホラーの文化論
第7回	文学・映画における恐竜	第22回	日本における古典的妖怪文化
第8回	キングコングと猿の文化史	第23回	『妖怪ウォッチ』と現代日本
第9回	映画における原子力発電所	第24回	同性愛映画の文化論
第10回	原爆映画論	第25回	オタク文化の進化論
第11回	レポート発表会	第26回	ライトノベル文化論
第12回	ゴジラシリーズと昭和/平成の時代文化	第27回	『ジョーカー』とアメコミの変貌
第13回	『シン・ゴジラ』とゴジラの変貌	第28回	同時多発テロの映画的側面
第14回	怪獣文化論	第29回	卒業論文について(1)
第15回	日本アニメの歴史	第30回	卒業論文について(2)

**到達目標**

映像イメージを読み解き、文化現象の意味を考察してゆく。現代思想を把握することで、映画、ドキュメンタリー、小説、あるいは漫画や雑誌などに描かれる諸問題を考察し、現代文化の理解を目標とする。

**履修上の注意**

マナーを尊重して楽しい授業にするために、積極的な参加を望みたい。映画の好きな学生は特に歓迎したい。時にセンセーショナルな映像を見ることがあるので、苦手な学生は注意してほしい。大量の資料を配布するのでファイルを持参のこと。

**予習・復習**

配布した資料は授業後に再び読み直してほしい。

**評価方法**

学期末レポート(60%)、提出物およびコメントペーパー(40%)などの総合評価。

**テキスト**

プリントなどの配布資料 また参考文献については随時指定する。

**授業概要**

教育を多面的に捉えることを目的にする演習です。

最初の15分間は、教員採用試験問題を研究する時間です。採用試験の問題が、何を根拠にして、どう出題されているのかを研究します。

その時間のあとは、教育学や教育社会学を援用しながら教育問題を考察します。例えばこれまでは、学力低下、虐待、いじめ、不登校、親の教育力、校則、部活動、生徒指導、個性化教育、教育費、教員の事件といったトピックスを紹介し、その問題及び問題化について考察しました。

学生同士のディベートを行う場合には、採用試験の集団討論や集団面接等の対策を想定して行います。

秋期には、春期で蓄積した知識と技能を活用し、卒論の「草稿」を仕上げます。そのため各回では、ゼミ生が卒論構想及び作成経過等を報告し議論をします。

**授業計画**

第1回	春期演習の運営上の説明	第16回	秋期演習の運営上の説明
第2回	歴史から教育を考察する方法	第17回	新学習指導要領の考察（授業はどうなるのか）
第3回	1950年代の教育	第18回	新学習指導要領の考察（教員はどうなるのか）
第4回	1960年代の教育	第19回	新学習指導要領の考察（生徒はどうなるのか）
第5回	1970年代の教育	第20回	新学習指導要領の考察（学校はどうなるのか）
第6回	1980年代の教育	第21回	卒業論文の書き方
第7回	1990年代以降の教育	第22回	卒業論文に向けた各ゼミ生の発表
第8回	戦前の教育問題の捉え方	第23回	卒業論文に向けた各ゼミ生の発表
第9回	現代の教育問題を考察する方法	第24回	卒業論文に向けた各ゼミ生の発表
第10回	教師に関する教育問題	第25回	卒業論文に向けた各ゼミ生の発表
第11回	生徒に関する教育問題	第26回	卒業論文に向けた各ゼミ生の発表
第12回	教育改革に関する教育問題	第27回	卒業論文に向けた各ゼミ生の発表
第13回	教員組織に関する教育問題	第28回	各ゼミ生の発表の総括
第14回	教育問題の語られ方を相対化する	第29回	今後の教育に関する議論
第15回	前期のまとめ	第30回	秋期のまとめ

**到達目標**

教育は、理想論として語られることが多いのですが、教員になる人には、是非「事実は、どうなっているのか？」という視点をもってほしいと思っています。そのような視点を身に付ける為のゼミだと考えてください。先生と生徒、という2者関係だけで物事を考えるのではなく、社会制度まで含めた広い視野で物事を考えられることを目指しています。

**履修上の注意**

教職課程を履修している学生が対象です。途中で教職を諦めた場合、ゼミスケジュールや内容についていけない事態が生じると思います。進路をしっかりと自覚してから履修してください。

**予習・復習**

予習：こちらが指示する教育問題について、あらかじめ予備知識を得て置く。

復習：ゼミで扱ったトピックスについて書かれてある文献を自ら探して読む。

**評価方法**

受講態度 60% 春期と秋期の最後に提出するレポート 40%

ただし、1月末に卒業論文の「草稿」が提出されない場合には、「不可」とします。

**テキスト**

演習の時間に提示します。論文等については配布します。

**授業概要**

この授業は、主に日本古典文学で卒業論文を執筆する学生を対象とし、平安時代の文学史上でもっとも有名な人物の一人である清少納言の作品を扱う。具体的な作品を読みながら、先行研究の調査、口頭発表・論文執筆の方法など、卒業論文作成のために必要な技術を身につけよう。

春学期は『枕草子』の著名な章段を取り上げて輪読するとともに、その章段についての論文を読む。論文を読む際には「何を主張しているか」と同じくらい、「どんな手続きを踏んでいるか」に注意すること。秋学期は『清少納言集』を取り上げて口頭発表してもらう。『枕草子』に描かれている清少納言とは異なる一面を読み取ってほしい。

**授業計画**

第 1 回	ガイダンス	第 16 回	ガイダンス
第 2 回	撰関期文化と清少納言について	第 17 回	歌集・『清少納言集』について
第 3 回	論文の読み方について	第 18 回	新編国歌大観の使い方について
第 4 回	初段「春はあけぼの」を読む	第 19 回	教員による発表見本
第 5 回	論文を読む①	第 20 回	卒業論文構想の相談①
第 6 回	八七段「雪山」を読む	第 21 回	卒業論文構想の相談②
第 7 回	論文を読む②	第 22 回	学生発表①
第 8 回	先行研究の調べ方・レポートについて	第 23 回	学生発表②
第 9 回	九八段「中納言まみりたまひて」を読む	第 24 回	学生発表③
第 10 回	論文を読む③	第 25 回	学生発表④
第 11 回	二二段「清涼殿の丑寅の隅の」を読む	第 26 回	学生発表⑤
第 12 回	論文を読む④	第 27 回	学生発表⑥
第 13 回	跋文を読む	第 28 回	学生発表⑦
第 14 回	論文を読む⑤	第 29 回	学生発表⑧
第 15 回	レポートの講評	第 30 回	まとめ

**到達目標**

- ①清少納言の作品、ひいては王朝文学について理解する。
- ②論文を読み、その要点を把握する技術を身につける。
- ③自分の考えをまとめ、他人に向けて発表する技術を身につける。

**履修上の注意**

基本事項については、授業中に一から説明する予定だが、古典文学についての基礎知識を身につけていることが望ましい。「日本文学史概論（古典）」を履修していると理解しやすい。事情がない限り欠席しない、何らかの事情がある場合は極力事前に報告すること。

**予習・復習**

『枕草子』各章段や論文については一週間前にプリントを配布するので、事前に目を通すこと。とくに論文については要点をまとめるプリントを配布し、記入してもらう。論文は難解であるため、授業後に要点を復習することを強く推奨する。

**評価方法**

授業への積極性（20%）、レポート（40%）、発表内容（40%）で判断する。

**テキスト**

適宜プリントを配布する。 やや値段が高いので強制はしないが、土方洋一『枕草子つづれ織り 清少納言、奮闘す』（花鳥社、2022年1月）は優れた概説書なので、講読することを推奨する。

**授業概要**

本演習では、心理学の論文を読むことを通じて、心理学研究の方法を学びます。その際、ただ受け身的に読むのではなく、「もっとこの研究を面白くするにはどうしたら良いか」「他の条件だったら結果が変わるのではないか」というように、批判的に読む力を養います。こうした批判的読みを通じて、4年次の卒業研究に向けた「基礎体力」を身につけることを目指します。

**授業計画**

※受講者の人数や理解度に応じて内容は変更する可能性があります。

第 1 回	春期の進め方の説明	第 16 回	秋期の進め方の説明
第 2 回	心理学とは	第 17 回	
第 3 回	心理学研究法①	第 18 回	論文の輪読
第 4 回	心理学研究法②	第 19 回	・担当者は発表資料を作成して臨む
第 5 回	心理学研究法③	第 20 回	・それ以外の方は発表を受けて、
第 6 回	論文の読み方	第 21 回	自分なりの意見を述べる
第 7 回	論文の探し方・選び方	第 22 回	
第 8 回	講師によるモデル発表	第 23 回	振り返り
第 9 回		第 24 回	
第 10 回	論文の輪読	第 25 回	論文の輪読
第 11 回	・担当者は発表資料を作成して臨む	第 26 回	・担当者は発表資料を作成して臨む
第 12 回	・それ以外の方は発表を受けて、	第 27 回	・それ以外の方は発表を受けて、
第 13 回	自分なりの意見を述べる	第 28 回	自分なりの意見を述べる
第 14 回		第 29 回	
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	

**到達目標**

- ・心理学の基本的な研究法の知識を身につける
- ・心理学の研究論文を読み、概要を理解できるようになる
- ・心理学の研究論文の批判的読みを通じて、自分なりの考えやアイデアを持てるようになる

**履修上の注意**

少なくとも1回は、授業時間外に論文を読み、発表資料を作ってくる必要があります。このような骨の折れる作業についてこられる人、心理学研究に強い関心がある人を歓迎します。また、発表担当でない人も、授業中に積極的に議論に参加し意見を述べることを求めます。

**予習・復習**

発表担当者は、事前に論文を読み、発表資料を作ってくる。そのほかに、授業時間外での復習等を求めることがある。

**評価方法**

授業への参加態度、発表の様子や内容、議論における発言などを踏まえて総合的に評価する。

**テキスト**

教科書は特に指定せず、必要に応じて授業中に資料を配布する。

**授業概要**

「音楽」を中心的な題材として、表現文化がメディア・社会といかに結びついているのかを考える。春学期は主に①「文献の購読・発表・ディスカッション」、秋学期は主に②「音楽とメディア・社会に関するディスカッション」を行う予定である。なお①の文献は複数の候補からゼミ生と相談して決定する。担当者は、内容を要約し、映像資料や音楽資料を使いながら発表する。それをもとに全員で議論を行う。ロック、ヒップホップ、アイドル、アニソン、クラシック音楽等、様々な音楽を題材に、私たちを取り巻く文化の諸相について読み、書き、考える力を習得していくことを目指す。軸となるのは音楽だが、アニメ、ミュージカル、ゲーム、ダンス、広告等も扱う場合がある（いずれにせよこれらもまた音楽と密接に関わる）。

**授業計画**

第 1 回	ガイダンス	第 16 回	卒論とはどのようなものか 1
第 2 回	音楽とメディア——ライブとレコード	第 17 回	卒論とはどのようなものか 2
第 3 回	音楽とメディア——アイドル	第 18 回	アニメと音楽
第 4 回	文献講読 1	第 19 回	ロック・ミュージック論 1
第 5 回	文献講読 2	第 20 回	ロック・ミュージック論 2
第 6 回	文献講読 3	第 21 回	レコード文化論 1
第 7 回	文献講読 4	第 22 回	レコード文化論 2
第 8 回	文献講読 5	第 23 回	DJ と文化 1
第 9 回	文献講読 6	第 24 回	DJ と文化 2
第 10 回	文献講読 7	第 25 回	広告と音楽 1
第 11 回	文献講読 8	第 26 回	広告と音楽 2
第 12 回	文献講読 9	第 27 回	楽器と楽器店の文化
第 13 回	文献講読 10	第 28 回	インターネットと音楽
第 14 回	研究の進め方	第 29 回	論文の書き方
第 15 回	研究テーマ構想について	第 30 回	各自の研究テーマについての報告

**到達目標**

- ・音楽とメディアに関する基礎文献、重要文献を読み、要約する力を養う。
- ・音楽（ないしその他の表現文化）と社会をセットで考える視座を得る。
- ・さまざまな文献を読み、他の受講生と議論することで、文化の多様なあり方に目を向けることができる。

**履修上の注意**

- ・すべて出席し、そのうえで積極的に授業に関与する（例えば質問や意見を述べる）ことが前提である。
- ・音楽に詳しくなくても、また音楽を卒論のテーマにする予定がなくても、芸術・文化やメディアに関心のある学生ならば歓迎する（扱う文献からは、音楽以外の表現文化・メディア文化を考えるためのヒントも得られるはずである）。
- ・文献講読、発表、ディスカッションの機会がある。積極的に関わること。
- ・受講生の人数によって授業回の順番や各トピックの分量は変化する可能性がある。

**予習・復習**

課題・発表等について、自分のスケジュールをよく考えて準備しておくこと。配布した資料やテキストにしっかり目を通し、自分の意見をまとめること。

**評価方法**

受講態度、提出物、レポートによる総合評価。

**テキスト**

教科書は指定しない。必要に応じて授業中に資料を配布する。

**授業概要**

本演習では4年次の卒業論文に向けた準備をする。従って、特定の言語資料（新聞や漫画）を見定め、分析し、調べ物をする事、それを発表資料にまとめ、口頭発表をすることといった、言語研究の基礎を身につけた上で、卒業論文の執筆の手掛かりにすることを目標とする。授業の形態としては、最初に講師が分析の仕方などを詳しく示し、それに倣って準備期間を経て各自で発表するというものになる。

言語資料は古代から現代まで様々あるが、本演習では現代の新聞（文章語）および漫画（口頭語など）における書かれた言葉を資料とする。これらは国会図書館にも収められており、学術的に利用できる。

**授業計画**

第 1 回	春期の進め方の説明と資料の相談	第 16 回	秋期の進め方の説明と資料の相談
第 2 回	文体の概説①	第 17 回	文体の概説③
第 3 回	文体の概説②	第 18 回	文体の概説④
第 4 回	漫画の発表①	第 19 回	漫画の発表⑦
第 5 回	漫画の発表②	第 20 回	漫画の発表⑧
第 6 回	漫画の発表③	第 21 回	漫画の発表⑨
第 7 回	漫画の発表④	第 22 回	漫画の発表⑩
第 8 回	漫画の発表⑤	第 23 回	漫画の発表⑪
第 9 回	漫画の発表⑥	第 24 回	漫画の発表⑫
第 10 回	新聞の発表①	第 25 回	新聞の発表⑦
第 11 回	新聞の発表②	第 26 回	新聞の発表⑧
第 12 回	新聞の発表③	第 27 回	新聞の発表⑨
第 13 回	新聞の発表④	第 28 回	新聞の発表⑩
第 14 回	新聞の発表⑤	第 29 回	新聞の発表⑪
第 15 回	新聞の発表⑥	第 30 回	新聞の発表⑫

**到達目標**

書かれた言語資料を集めて分析することができ、自分自身で日本語学の分野の発表の基礎的な準備ができるようになること。特定の言語資料（新聞や漫画）を見定め、文章語と口頭語を対照しながら、その言語資料の文体の特性を複数見つけ出して論じることができるようになること。

**履修上の注意**

「日本語の文法、日本語学（概論）、日本語学（各論）、日本語コミュニケーション、言語学、社会言語学」などの日本語学・言語学系の科目のうち少なくとも一部を既に履修しているか、並行して履修してもらいたい。

特に「日本語の文法」は必須なので、未修なら並行履修してほしい。また、エクセルを頻繁に使うので、苦手な人はあらかじめエクステンションセンターの講座などで勉強しておくとうい。

**予習・復習**

授業は、各自が発表準備を間に合わせることを前提としており、最初の発表者は短い準備期間で仕上げることになる。発表の順番などは原則としてクジで決める。受講者の人数次第では講義の回数を増やすか、あるいは発表を複数回担当することもありうる。各自発表に間に合うように努力されたい。

**評価方法**

発表・レポートおよび定期試験（80パーセント）、その他受講態度等（20パーセント）で評価する。

**テキスト**

・教科書は使用しない。資料については以下のとおり。新聞や漫画は講師が資料を配付することも、受講者が用意することもある。新聞は「朝日新聞、産経新聞、東京新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞」などの記事を利用するが、受講者間で資料が異なるようにしたい。漫画は特定の作品のセリフなどを資料とするが、基礎演習では数話程度、専門演習では1巻分程度を扱う。受講者間で作品や作者が異なるようにしたい。

**授業概要**

近現代の短編・長編の名作を読み、作品に対する研究・批評の方法を身につけるとともに、作家の表現者としての個性を把握できるように指導する。また作品を通して現れる時代社会に対する認識を深められるように導く。くわえて先行研究を摂取しつつ自身の視点を明確にするという、研究の基本的な技能を習得することで、次年度の卒業論文作成への準備とすることを旨とする。

**授業計画**

第 1 回	ガイダンス：作品研究の方法	第 16 回	三島由紀夫『真夏の死』を読む1
第 2 回	森鷗外『阿部一族』を読む1	第 17 回	三島由紀夫『真夏の死』を読む2
第 3 回	森鷗外『阿部一族』を読む2	第 18 回	三島由紀夫『真夏の死』を読む3
第 4 回	森鷗外『阿部一族』を読む3	第 19 回	安岡章太郎『海辺の光景』を読む1
第 5 回	樋口一葉『たけくらべ』を読む1	第 20 回	安岡章太郎『海辺の光景』を読む2
第 6 回	樋口一葉『たけくらべ』を読む2	第 21 回	安岡章太郎『海辺の光景』を読む3
第 7 回	樋口一葉『たけくらべ』を読む3	第 22 回	安岡章太郎『海辺の光景』を読む4
第 8 回	樋口一葉『たけくらべ』を読む4	第 23 回	夏目漱石『ころも』を読む1
第 9 回	志賀直哉『濁った頭』を読む1	第 24 回	夏目漱石『ころも』を読む2
第 10 回	志賀直哉『濁った頭』を読む2	第 25 回	夏目漱石『ころも』を読む3
第 11 回	志賀直哉『濁った頭』を読む3	第 26 回	夏目漱石『ころも』を読む4
第 12 回	芥川龍之介『地獄変』を読む1	第 27 回	夏目漱石『ころも』を読む5
第 13 回	芥川龍之介『地獄変』を読む2	第 28 回	夏目漱石『ころも』を読む6
第 14 回	芥川龍之介『地獄変』を読む3	第 29 回	夏目漱石『ころも』を読む7
第 15 回	芥川龍之介『地獄変』を読む4	第 30 回	夏目漱石『ころも』を読む8
		第 31 回	まとめ：作家と作品の関係

**到達目標**

- 作品を自身の眼で読み、主題や動機の在り処を捉えることができる。
- 先行研究を踏まえつつ、自身の把握を明確にすることができる。
- 第三者を説得する論理性のある文章を書くことができる。

**履修上の注意**

この授業は近代文学ゼミに所属する学生に開かれた授業である。

**予習・復習**

- 発表担当者は必ず当該授業までにレジュメを準備し、つつがなく発表を行う。
- 発表者以外の出席者も必ず作品を読み、発表者に質疑ができるように準備しておく。
- 授業後は内容を見直し、作品への把握を深めつつ、レポート作成へつなげるようにする。

**評価方法**

各作品に対する小レポート、期末レポート、作品の発表を含む授業参加態度により評価する。

**テキスト**

各作品のテキストは教員がプリントによって用意する。ただし『ころも』のテキストのみ、新潮文庫版を各自で購入しておくこと。